



海外でも
活躍！

世界へ羽ばたくJRTT職員

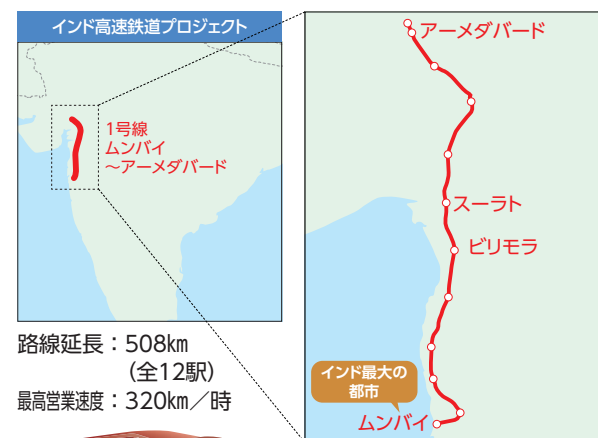
鉄道・運輸機構（JRTT）は、鉄道技術の海外展開に向けた国際協力業務を行っています。

JRTTはインドでの「ムンバイ・アーメダバード間インド高速鉄道プロジェクト」支援のために、(株)海外交通・都市開発事業支援機構（JOIN）と東日本旅客鉄道(株)（JR東日本）の3者で2021年9月に日本高速鉄道電気エンジニアリング(株)（JE）を設立しました。

今回はJRTTからJEに出向している職員のうち、現地のインドへ赴任している職員にインタビューしました。

インド高速鉄道プロジェクトの概要

インド高速鉄道ムンバイ・アーメダバード間については、2015年12月の日印首脳会談に際し、両国政府間で新幹線システム導入に関する覚書が締結され、同路線で日本の新幹線方式が導入されることになりました。



インド高速鉄道プロジェクトでの出向先（JE）の業務

「インド高速鉄道プロジェクト」の電気関係業務において、発注者であるインド高速鉄道公社（NHSRCL）の業務の支援をしています。

●JEの会社概要

名称：日本高速鉄道電気エンジニアリング株式会社
(略JE: Japan High Speed Rail Electric Engineering Co.,Ltd)
設立日：2021年9月1日
出資者：東日本旅客鉄道(株)（JRE）、(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構（JRTT）、(株)海外交通・都市開発事業支援機構（JOIN）



馬場 茂行



池田 幸生

JRTTでの経験が生かされたことはありますか？

馬場 日本の新幹線プラクティスを基本とした業務ですので、さまざまな経験を有用しています。

基本的に日本もインドも必要な技術は同じで、どちらが上とか下とかはありませんが、やはり経験や知識からくる技術提案を持ちかけると相手の印象は非常に変わります。

インドは完全分業制なので、異系統（例えば建築、土木、空調等）に関する事柄に触れる機会が多い日本人技術者の技術力は強みになりました。

池田 日本で新幹線の新設工事に携わっていますので、最初から計画をして新幹線を構築することに強みを感じます。私の担当は電車線になりますが、電柱基礎、支線基礎、電車線支持（トンネル・駅構内）の土木委託等については JRTT の経験が生かされたと実感しました。

今後は設計、材料発注、施工と業務が進捗していき、最終的には設備確認で総点検から始まり、事前監査、本監査、運輸局監査、総合監査の時も JRTT の経験が生かされる時だと思います。



建設中のスーラト駅



ビリモラ・スーラト間の高架橋



インドでの業務で印象的なことがあれば教えてください。

馬場

インドで会議をしていると、必ずチャイとクッキーが提供されます。いつ終わるかわからないので非常にありがたいのですが、打ち合わせ終了間際に提供されると退出タイミングを逸することがあり困ったりします。

池田

インドは完全分業制で、技術的な知識などは情報共有をせずに自分の財産として他言しないことです。インドの通訳さんに聞いたところ知識は財産であり、仕事をするうえで武器になるので他人には教えないようです。また今回のプロジェクトで日本と大きな違いを感じた点は契約書が全てということです。そのため、業務を遂行するうえでは常に契約書を熟読しています。



業務で苦労されたことを教えてください。

池田

海外業務において当たり前のことですが、英語での会話です。自分の言いたいことは英単語を使いながらジェスチャーで何とか伝わりますが、一番困難を感じたのは聞くことです。インド赴任当初は何を話しているのかさっぱりわかりませんでした。

しかし、ここからが人間の面白いところで、半年も経つと耳が鍛えられて相手の言うことがわかるようになりました。赴任当初は中学生レベルの英語力もないと思っていましたが、最近ではインドのスタッフや NHSRCL（インド公社）と世間話をできる程度までに成長しました。



休日はどうしていますか？

馬場

たまに日本人スタッフで観光旅行に出かけたりします。先日はデリーから往復 8 時間かけてアグラまでタクシーで移動し、タージマハルやアグラフォートといった世界遺産観光旅行に行きました。まさに壮観でした。また、この前はインドの結婚式に出席しました。参列者が数百人と、かなり規模が大きく、2泊3日の結婚式でした。国際業務に携わっていないと経験できない貴重な体験だと思います。

タージマハル



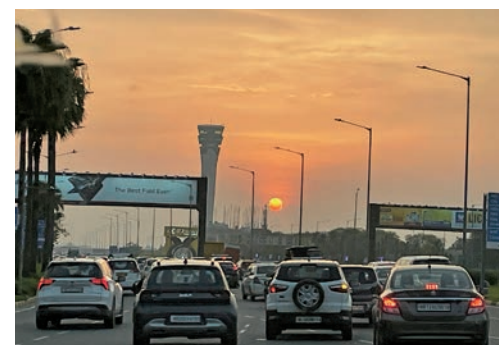
現地業務に携わって感じたことを一言お願いします。

馬場

言葉の壁があるのは確かですが、単語の組み合わせを相手が聞き取ってくれるので、正直なところ言語に不自由はありません。また業務においては通訳も手が空いていれば気軽に対応してくれています。そのため機会がある方は、ぜひ海外業務に挑戦してほしいですし、今回読んでいただいた方においては、さまざまな苦労をしながら取り組んでいる JRTT の国際業務に興味を持っていただけたらうれしいです。

池田

正直なところ、当初はインドでの業務に難色を示していたこともありましたが、赴任から早くも約 1 年が経過し、最近では海外業務の経験は貴重で、インド高速鉄道の業務に携わることができて良かったと思うほど考え方が変わりました。人生は一度きりです。ぜひ仕事でもプライベートでもインドにいらして、日本では得難い経験をしてみたいはいかがでしょうか。



夕暮れのデリー市内



道路上の牛。インドでは神聖な生き物とされている



NHSRCL の食堂のカレー